

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名 : 鴨川祐子 所属 : 長崎市立諏訪小学校 記録日 : 2021年2月10日
キーワード : コミュニケーション 言語理解と表現力

【対象児の情報】

- 学年 小学校4年年生
- 障害名 知的障害を伴う自閉症 注意欠損多動性障がい (AD/HD)
- 障害と困難の内容
 - ・言葉の意味理解に困難さがある。
 - ・自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えることが苦手である。
 - ・自分の考えや行動が思うようにならない時は、不安が高まり混乱したような様子を見せることが多い。
 - ・体の動きがぎこちなく、姿勢の保持、身体のバランス力、手指の巧緻性、身体の使い方に課題が多い。
 - ・感覚刺激に対する反応性の問題も多い。



【活動目的】

- 当初のねらい
 - ①コミュニケーションの方法を学んで、人とのやり取りを楽しむことができる。
 - ②自分の学びの方法を使い、言語の理解と表現する力を高める。
- 実施期間 2020年4月～2021年2月現在
- 実施者 鴨川祐子
- 実施者と対象児の関係 特別支援学級担任

【 活動内容と対象児の変化 】

○対象児の事前の状況

- ・聴覚の過敏性があり、教室のざわざわした音や大きな声を嫌がる。
 - ・予定の変更があると混乱して不安定になる。
 - ・協調運動（両手両足・目の動き・口や舌の動き・姿勢の調整や維持等）がスムーズにできない。手を使った細かい作業（書字・描画・箸等の使用）も苦手である。
 - ・自分の気持ちを言葉で表現することが苦手で、大声を出したり泣いたりすることで伝えようとする。
 - ・伝えたい気持ちはあるが、相手にわかってもらえなかったり、話を聞いたときに上手に返答できなかったりして、話が長く続かない。
 - ・指示や状況を理解しにくく、混乱して不安になることもある。
 - ・不注意、多動、衝動性が強いため、学習や生活、コミュニケーションに困り感を持つことが多い。大切な話を聞き逃してしまい、何をしたいかわからなかったり、思っていることをストレートに伝えてしまい誤解されたりすることで、不安になることもある。
 - ・興味関心のあることは、情報をキャッチしやすく、すぐに覚えることができる。今は、ポケモンのキャラクターや海の生き物に興味を持っている。
- (学習について)
- ・スムーズに読むことができるが、内容を理解できていないことが多い。
 - ・ひらがな、かたかな、1年生程度の漢字を覚え、書くことができる。書くことは嫌いではないが、字形が整わなかったり、画数が多くなると、イライラしたり、途中で諦めたりする。

○活動の具体的内容

①コミュニケーションの方法を学んで、人とのやりとりを楽しむことができる

関わりを増やし、やり取りを楽しむために

<p>「ByTalk for School」 会話の楽しみを味わうために、毎日やり取りをして安心できるようにした。</p> 	<p>「まるばつクイズメーカー」 自分の気持ちや行動を伝えるための選択しやすい○×問題を使い、伝えたいことを言葉で伝えた。</p> 
<p>「えにつき」 写真や文章で映像記録を残し、エピソードを想起しやすいようにした。</p> 	<p>「筆談パット」 いつでもどこで誰が何をするゲーム等を使い、視覚化することで、できた文章の面白さやできばえについて気付くようにした。</p> 
<p>「きもちメーター」 自分の気持ちに向き合い、言葉で記録し気持ちの変化を視覚的に感じ取れるようにした。</p> 	<p>「NHK for School」 様々なジャンルの学習で、事前学習での意欲向上や学びのヒントにした。</p> 
<p>「Pictionary Air」 やり取りを楽しむためにジェスチャーをつけながら空中に絵を描き、何を書いたか当てるゲームを取り入れた。</p> 	<p>「なまちゅーけい」 伝えたいことをはっきりわかりやすく印象的に伝えられるように、伝え方を確認し評価につなげた。</p> 
<p>「ルーレット！」 話がスムーズに進むようにルーレットを回し8つのお題から話す内容を選択することで話しやすくした。</p> 	<p>「ScratchJr」 楽しみながら、問題を解決する力、創造的に表現する力をつけるために、作品を伝え合った。</p> 
<p>「コミック会話」 会話を視覚化し、出来事を明確にしたり、出来事の流れを整理したりした。事実と本人の思いを受け止め、相手の気持ちを整理したり、解決策に気付いたりすることができるようにした。</p>	<p>「ローマ字ロボ」 ゲーム感覚で楽しみながら練習することで、ローマ字に親しむようにした。</p> 

・手作りの「はなまるノート」は、冬休みに家族と過ごしたことから、心に残ったことや家族から見た本児の良かったことを伝え合うノートで、家族の交流を言葉で伝え合った。

もっと伝えたい気持ちを膨らませるために

<p>「My 図鑑」 海の生き物・ポケモンをまとめ伝えるための準備をした。</p> 	<p>「keynote」 ポケモンクイズ・海の生き物クイズを作り、わかりやすく伝えるように工夫した。</p> 
<p>「zoom」 事前に伝えたいことを考え、伝えることで伝わることの喜びを経験した。</p> 	<p>「AR TOUR OCEAN」 「水族館」を開館する際に、見せたい水中トンネルを再現し、ワクワク感を持たせた。</p> 

・人とのやり取りを楽しむことができるように、計画（誰に向けて・どのような内容で・どのような方法で）
 ➡準備➡伝える➡伝えることの喜びや満足感を味わう➡もっと伝えたい気持ちへとつなげてきた。



②自分の学びの方法を使い、言語の理解と表現する力を高める

生活の中で使える言葉を増やすために

<p>「読み放題」 様々な種類の話を読み、多くの絵やストーリーに触れる経験を積んだ。</p> 	<p>「新・筆順辞典」 検索方法・牽引方法・筆順練習等が丁寧にでき、漢字を認識しやすいので、新出漢字の練習で使った。</p> 
<p>「二年生の漢字」「三年生の漢字」「ひらがなたんご」 漢字や言葉の種類が分類され、絵や音韻情報でイメージがわきやすく理解につながるので、繰り返し使った。</p>   	<p>「palstep」 課題を取り込み、書き込むことで書く負担軽減した。学習したことを確認し保存することで、学習の振り返りをした。</p> 
<p>「デージーポット」 マルチメディアデージー教科書を使い、教科書の学習内容を理解しやすくした。</p> 	<p>「MetaMoji Note」 「コトバンク」という学習活動の内容を取り込み、共有し合うことでやり取りの良さに気づくようにした。</p> 
<p>「SimpleMind-マインドマッピング」 短文作りや言葉集め等で、考えを整理したり、情報を記憶したりするようにした。</p> 	<p>「なぞなぞーミラクル頭脳パワー」 語彙力や発想力を伸ばすために、いろいろなジャンルのクイズを経験した。</p> 
<p>「DropTalk」 視覚情報を使い、シンボルと音声を合わせて表出できることで言葉の理解を深めることができるようにした。</p> 	

- ・「コトバンク」は、家庭学習として取り組み、教師が提案したお題に対して、自分の思いを言葉や絵で表現した。それを国語の授業で、クラス全員と共有し子ども同士で評価し合った。
- ・「palstep」は、言葉の理解や広がりの確認、演習等にした。教師が自作プリント教材を写真でアップしたものを、本児が「MetaMoji Note」に取り込み書き込んでいく方法で行った。さらに、書き込んだ内容を教師が評価し、次への意欲へ繋げていった。

自分で解決しやすくするために

<p>「例解学習国語辞典」 言葉に多く接するチャンスを増やし、わからない言葉について調べ、理解しやすいように写真を取り込み、自分辞典を作った。言葉を理解することで伝えることに自信を持たせるようにした。</p> 	<p>「iMovei」 写真や言葉を選び、簡単な操作で動画編集を経験し、10歳の記念ムービーを制作した。自分の10年間を振り返ることで、思いを伝える喜びを感じるようにした。</p> 
---	---

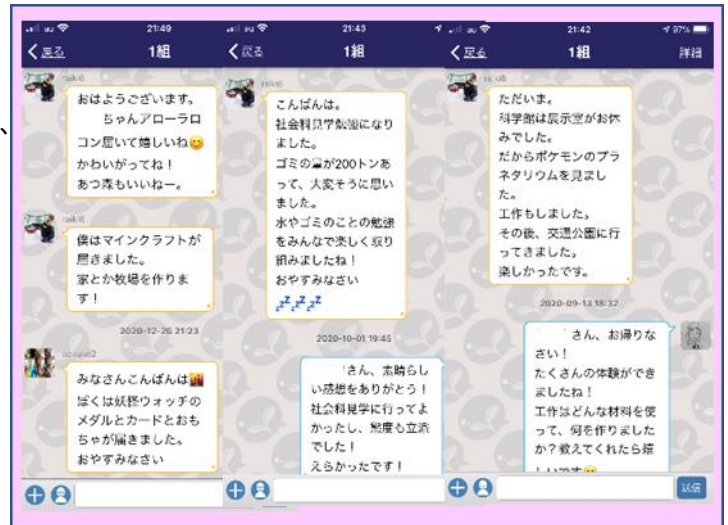
○対象児の事後の変化

①コミュニケーションの方法を学んで、人とのやり取りを楽しむことができる

I 関わりを増やし、やり取りを楽しむために

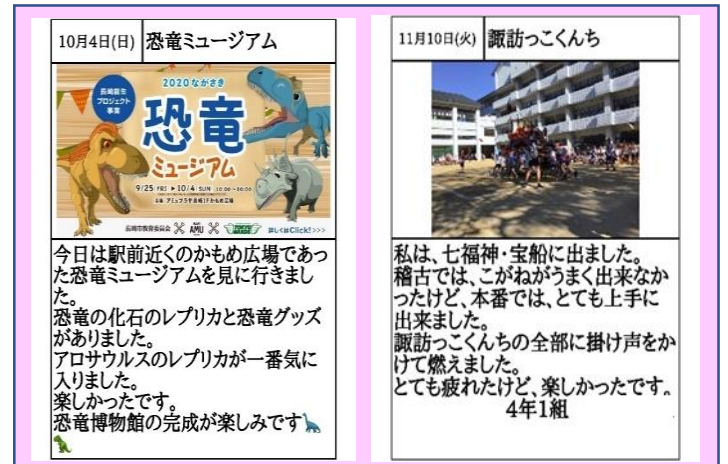
(1) 会話の楽しさを増やす

毎日の日課になっている ByTalk for School では、友達のメッセージに対して、感想や共感する言葉が多く書かれるようになり、友達のことを認めたり褒めたりしながら、自分の思いを分かりやすく伝えることができた。また、家庭での出来事を書くことが多かったが、学校で学習したことの感想や思いを詳しく書くことができるようになってきた。さらに、季節や行事を意識したメッセージや学習した言葉を積極的に使い始めている。



(2) 写真や言葉を使い気持ちを伝える

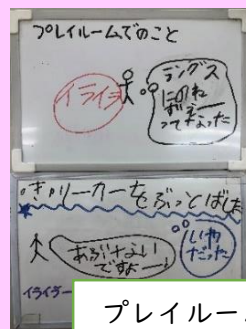
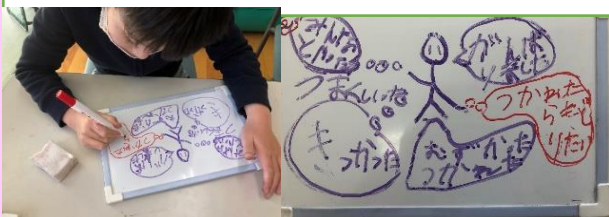
家族で一緒に行ったイベントで、たくさんの恐竜の化石に興味を持ち、写真もたくさん撮ったことでみんなに伝えたいという強い気持ちを感じることができた。学校行事の「諏訪っ子くんちフェスティバル」で自分が体験し思いっきり頑張ったことがとても嬉しかったようで、感想文はアドバイスなしでスムーズに書いて完成させた。



(3) 自分の気持ちを視覚化し自分の気持ちと向き合う

自分の思っていることをうまく言葉で表現できないことや相手の気持ちを理解しづらいため、視覚化し自分の言動を明確にしながらか話をしてきた。音楽の時間に少し辛そうな表情で授業に参加したり、自立活動の時間のごほうびタイムの時に衝動的な行動が出たりしたので、話を聞いてみた。言葉では「頑張りました!」「あぶないですよ!」とだけしか言わなかったが、心の中の思いを尋ねたところ、辛かったことや嫌だったこと、イライラした理由を書くことができた。出来事があった直後に行うことで、正しい記憶で出来事を明確化し、行動の流れを確認しながら整理することができた。また、思い違いや自他の感情を学ぶことができ、良い行動を理解できた。このやり取りを行うことで、同じような行動が見られなくなり、自分からやりたいことを言葉で伝えることができるようになった。今は、「心ノート」に書き込みながら、自分を見つめる時間を作っている。

音楽の授業が終わってから



日常の出来事



プレイルームでの出来事

(4) コミュニケーションの機会を増やしわかりやすく伝える

・「なまちゅーけい」では、スワンダフルマリワールドで館長挨拶を収録し、分かりやすく話し言いたいことが伝わるかを確認した。クラスの全員自分の担当の話の収録し、お互いに見合いながら意見交換を行った。本児は、大変流暢な言い回しで、落ち着いてメリハリのある聞きやすい話だったと好評であった。

・「ScratchJr」では、プログラミングを体験して、スワンダフルマリワールドにつながるような作品を作ることができた。自分で動かし方や声の入れ方を工夫し楽しみながら活動し、できた作品を紹介し合った時に他の友達の素晴らしい作品を見て、「すごいね!」「どうやってつくるの?」など、積極的に話に参加する様子が見られた。

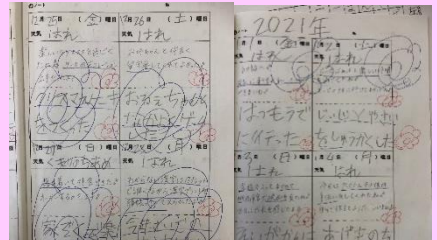
・「はなまるノート」は、冬休み中に活動したことから、保護者がよかったことを書いてくれたり、本児も自分が頑張ったことを書いたりして、良いところをたくさん見つけて自信をもってほしいという思いで行った。家族がたくさんいいところを見つけてくれとても喜んでいて。また、自分の頑張りも毎日書くことができ心が安定していると感じた。家庭の協力で、将来を見据えてたくさんの経験を積み、知識も増えて言葉にも広がりが見られてきた。



館長挨拶練習



プログラミング体験



家族との絆「はなまるノート」

・学校でも多くの友達と学習時間や休み時間に、たくさんのやり取りが見られるようになってきた。お互いの話を聞き合ったり、質問したり、共感したりする姿が多く見られ、笑顔が増え不安定な気持ちが減り始めている。また、休み時間には運動場に出て、先生方や委員会活動をしている飼育委員会の高学年に話しかけたり、困っている低学年に優しく声をかけたりするなど、広範囲に渡り多くの人たちと自分から関わりをもつようになってきた。交流学級の友達や先生・支援員さん・司書の先生・保護者の読み聞かせの方々・クラスの保護者・放課後デイサービスの先生方と関わる機会を多く設定したことで、様々な活動を経験しながら状況や場面にあった関わり方ができるようになってきた。特に、これまでは会話が一步通行だったが、同じ興味をもつ友達と話が弾んだり、相手の話にうなずきながら聞いたり、聞いた言葉に対して感想を話したりするなど、会話のやり取りができていくことにびっくりさせられた。自己表現力や双方向の関係を調整したりする力ができつつあると感じた。

2 もっと伝えたい気持ちを膨らませるために

(1) スワンダフルマリワールドで伝えたい意欲を高める

・11月にやっと水族館開園ができるようになり、クラス全員が一丸となり準備を進めた。準備を進める中で、より楽しいスワンダフルマリワールドにしようと館長として一生懸命に動き、開園をとっても楽しみに頑張ることができた。これまで行ってきた付箋を使っての話し合いの計画を生かして、パンフレットや魚作り、チケット作り、館内整備、実物大の巨大ジンベイザメ作り、わかりやすいように魚の写真の掲示、水中トンネルの設置、シアターの準備が順調に行われた。また、館長や係として、お客様に説明・案内をするためのわかりやすい伝え方は、事前に自分で考えた言葉で練習を積み重ねたので、安心して自信をもって行うことができた。

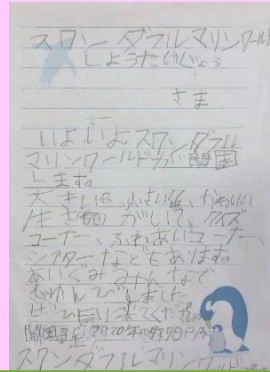
開園までの準備



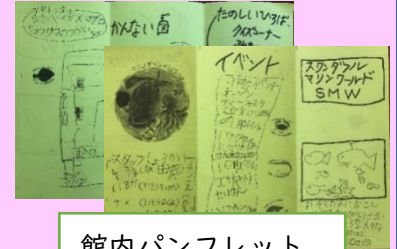
友達と一緒に看板を制作した。やり取りをしながら楽しんだ。



魚の写真を説明する場所の近くに掲示。掲示場所は、自分で選んだ。



手書きで招待状作り。誰に渡すか計画書を書いて確認した。



館内パンフレット

開園中 (11/27~12/10)



館長挨拶



来園者に挨拶してパンフレットを渡す。



ジンベイザメの説明
実物大で特徴や生態についてわかりやすく話すことができた。

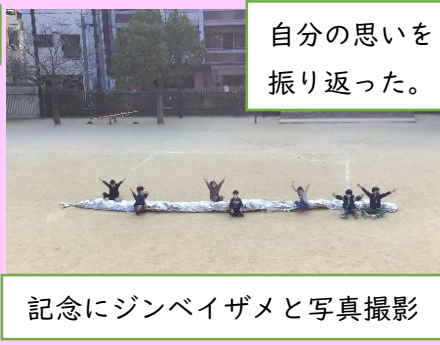


水中トンネルで、出てくる魚の名前や特徴を説明した。

来園者にお礼を言いながら手作りのしおりを渡した。



閉館後



記念にジンベイザメと写真撮影

自分の思いをまとめて振り返った。



(甲) マリンワールド
愛組のみんなと魚の話をしたから、みんなでマリンワールドをしたいと思いました。
準備をしている時は楽しかったけど、ジンベイザメを作る時18mも新聞紙を並べたり詰めたりするのが大変でした。
来てくれたみんなが楽しんでくれて質問もしてくれて嬉しかったです。
館長の挨拶を言う時、緊張したけど館長をしてよかったです。
来てくれた人たちに、ありがとうございましたと言いたいです。
今度はみんなで動物園を作りたいです。
右前は、スワンダフル動物園がらいいです。



来園者にアンケートをお願いに行った。

2週間にわたるスワンダフルマリンワールドであったが、計画から準備まで自分たちで運営したことに満足感を味わうことができた。1年~5年までの12クラスの児童と先生方、外部からの訪問者もあり多忙であったが、最後まで来館者のために一生懸命関わることができた。多くの人と話をしたり、説明を聞いてもらったりすることで、交流の輪が広がり、もっと見たい、もっとやりたいという子ども達が閉館後も休み時間に遊びに来ては、楽しく過ごすことができた。この取組を通して、たくさん話しながら準備したことや人と関わることでやり取りの楽しさや喜び、安心感などを味わうことができた。

(2) 伝え合う喜びを感じる

・魚やポケモンクイズを作成した。ポケモンクイズは、毎日のように「えにっき」に調べたことをまとめたことを生かして簡単に作ることができた。好きなことに取り組みながら意欲を継続させ文章を書くことで、分かりやすく言葉で表現することができた。



・「zoom」では、3学期始業式前日に、全員の無事を確認したり、3学期のめあてを一緒に読み合ったり、書初めの決めた文字の理由を加えながら話したりすることで、スタートの喜びを味わうことができた。後半は、早口言葉やダジャレ等を言い合い和やかな雰囲気でも過ごすことができた。またやりたいという期待感をもつことができた。今回は、4年生の思い出と振り返り友達に伝えたいこと等を話し合い、学年のまとめとして心に残る時間にしていきたい。

3 学期の豊富と書初めに書く字とその理由を一人ずつ発言したが、書く字は紙に書いて見せることで、理解しやすかった。

早口言葉やダジャレ等を言い合い、リラックスして笑顔で終わることができた。

②自分の学びの方法を使い、言語の理解と表現する力を高める

I 生活の中で使える言葉を増やすために

経験を積み言葉を広げる

・「コトバンク」での課題は、国語の時間に電子黒板を使いながら共有し合い、発表する言葉を視覚的に確認することで、理解が深まってきた。本児は、他の人の発言の後、必ず質問をして解答を聞くという姿勢が見られ、聞きたいことや話したいことを言葉で伝えることができるようになった。また、楽しく家庭学習に取り組み、発想豊かな作品が多かったため、友達からたくさん褒め認められていた。

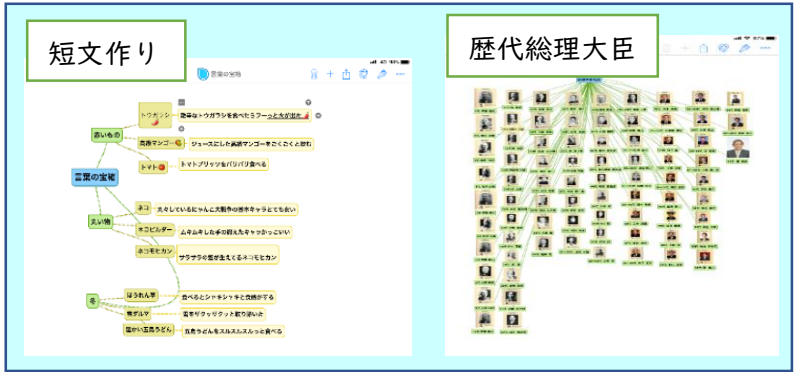
・「DropTalk」では、「言葉の宝箱」で取り組んでいる言葉の理解を深めるために、言葉マップを作ったり、自作のプリント教材を入れ込んで理解できているかを確認したりしたことで、学んだ言葉を日常的に使うことができるようになってきた。

コトバンクと言葉の宝箱で、語彙力アップ!

コトバンクで自分の考えを分かりやすく発表!

言葉の理解ができているかチェック!

・「SimpleMind-マインドマッピング」では、言葉集めの他に、短文作りや作文作りに利用したことで、文章を作ることには抵抗が減ってきたり、言葉を選んで書くことができたりするようになった。他にも、ニュースをよく見るようになってから、社会への関心を持ち、自分から歴代総理大臣をまとめたいと調べ始め、写真を入れ込みながらあっという間に仕上げてびっくりさせられた。



2 自分で解決しやすくするために

言葉を理解して言葉を使う

「例解学習国語辞典」では、学校で作ったオリジナル「言葉の宝箱」に記載されている言葉を調べ、短文作りを行った。言葉の意味がわからない時や上手く説明できない場合に、調べるように促している。文にはルビが付いて読みやすく、イラスト等を挿入することでイメージがわかり理解が進み、会話の中で使うことができ始めている。

「iMovei」では、総合の時間に自己成長記録を作成し、写真や文字を伝わりやすく表現しながら予告編動画にまとめることができた。3月の学習発表会で、解説を入れながら発表し、今年度の頑張りを伝える予定である。



【 報告者の気づきとエビデンス 】

・主観的気づき

- ①言葉を伝え合う経験、感動的な経験、様々な感情体験等の環境設定を行ったことで人との関わりが増えた。体験を通して感じたことを言葉で伝えたり、思いを共有し合ったりしながらやり取りが楽しくできてきた。
- ②本児が自分で考えた「スワンダフルマリンワールド」の取組では、やりたい・もっと伝えたい気持ちが膨らみ、やりたい気持ちがあふれ出て、やり取りを楽しむことができ、次への学習や生活の意欲につながった。
- ③自分の不快な感情について、担任とやり取りをしながら心の言葉を視覚化し自分の思いを整理していく事で、自分の感情に向き合い、気持ちを言語化し、自分で解決していく力が見え始めた。
- ④生活の中で学習や自分の興味のあることに努力し取り組んだことで、言語の理解が進み、伝えることに自信が出てきた。学校や家庭で使う言葉が増え、言葉に広がりが見られた。使う言葉も会話だけではなく、日記や手紙等にも表現することができるようになった。

・エビデンス

①について

学校生活の中で言葉を使って自分の思いを伝える場面がよく見られるようになった。



・学校で工事が入っている現場のすぐ側で観察していたあと、走ってきて「先生！工事をしている人たちの様子や大きな音を聞いていたら、まるで自分も工事をしているように感じました！」と話してくれた。全身を使って感じ取りそれを学んだ言葉で伝えたかったのだと本児の気持ちを強く感じた。

・昼休みに学校中をバスに乗って歩き回っているが、ある日、一度教室に慌てて入ってくるなり、「後輩と遊んでいます！」と嬉しそうに伝えてくれた。友達から声をかけてもらったらしく、先輩・後輩と呼び合いながらとても仲よく話をしているようである。クラスや学年以外の友達と関わることは初めてであるが、スワンダフルマリンワールドがきっかけとなったようである。

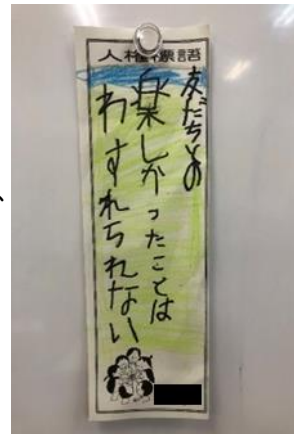
②について

活動を通して言葉でのコミュニケーションをたくさん



楽しんだことで、もっとやりたいという意欲につながった。

・人権標語と書初めの言葉で本児の成長を感じた。人権標語では、友達と遊んだり話したりできたことで、とても嬉しかった気持ちを書きたかったと話してくれた。きっとこの喜びが今の生活に生かさせてきたのであろう。書初めには、もっといろいろなことに挑戦して、できるようになることを増やしたいと具体的に思いを伝えることができ、意欲と向上心の高まりを感じた。



・スワンダフルマリンワールドの実践を評価してもらった。自分達の精一杯の頑張りに素敵な感想を書いてもらい、自分たちがやったことを評価してもらったことで、また何かしたいという意欲につながることができた。

スワンダフルマリンワールドの感想抜粋

- ・みんなでアイデアを出しながら力を合わせた結果に、胸が熱くなりました。
- ・子ども同士がお互いに気を遣いながら順番や手順をやり取りしていた所に成長を感じました。
- ・どのコースも詳しく調べたり、工夫して説明をしたりしてもらったので、2年生にもとても分かりやすかったです。もっとしたかったという感想がとても多かったです。ありがとうございました。

③について

学んだ方法を思い出して自分で解決していくようになった。

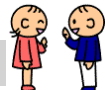


・朝から時間割を確認し、交流学級での活動で、不安なところがないかを聞いたり、不安を感じる時間は学習内容を知らせたりすることで、安心して参加できるようになってきた。また、活動中に不安なことがあったら、周りの大人に助けてもらえるように声をかけるように伝えてきたが、自分で困ったときは助けを求めることができた。これまで体育や音楽の授業は、行くのを嫌がっていたが、不安が減り始め、授業が終わったら、「がんばりました！」と元気に帰ってくるようになった。

・これまで、交流学习で多くの友達と学ぶ事や学校行事に伴って時間割の急な変更があると、すぐに混乱していた。自分でも何を話しているかわからなくなり無意味な言葉を使ったり、物を投げたりするなど、嫌だという気持ちをいらいらした行動で表現していた。落ち着いた後、自分の心と向き合い、心の叫びを言葉で書き表したり、話したりしながらやり取りを続けたことで、暴力的な行動はほとんど見られなくなり直ぐに言葉で伝えるようになった。教師と話をじっくりしたときに、「気持ちメーター」でチェックをしていた色を言葉にして、「その時は青でした。でも、今は赤になりました！気持ちが明るくなりました！すっきりしました！」と話してくれた。その時は、安心した笑顔が見られ、気持ちを替えることができたことを一緒に喜び合った。

④について

言葉に広がりが出てきた。

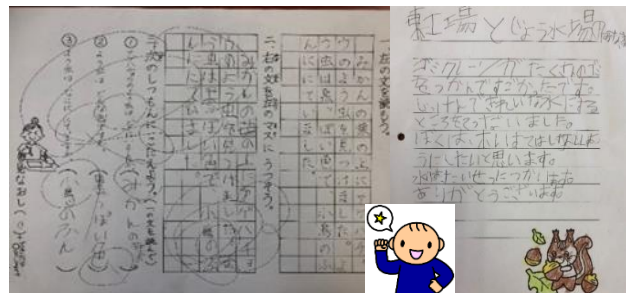


・人物・事物・考え方・心情を表す言葉が日常的に使えるようになり、学んできたことが生かされてきたことを日々感じる事ができた。また、言われると嬉しい言葉を友達によく伝えるようになった。

※2 学期以降に増えた使えるようになった言葉

気が弱い・たくましい・意地悪・前向き・そっかしい・勇気・努力家・知恵のある・親切・便利・立派
素早い・窮屈・ひっそり・人気がある・詳しい・細かい・ぼくだったら～・～くらいの・同じところは
～みたい・～のように・～と同じ・平気・驚く・ドキドキする・さっぱりする・気持ちがいい・わくわく
する・気に入る・ほっとする・やめて・助けて・手伝って・教えて・嫌だよ・もう一度話して・一緒にやろ
う・その後・代わります・すごいね・先輩・後輩

・国語の簡単なテストができるようになった。聞かれていることへの解答を書き込んだり、覚えた漢字も丁寧に書いたりすることで、できる喜びを感じながら学習を進めていた。社会科見学のお礼状では、学んだことをこれからの生活に生かしていくという自分の思いを書くことができた。



・その他のエピソード

家庭との連絡

連絡帳を活用することで、保護者からは家庭での本児の様子を毎日細かく教えていただいた。家庭での成長の様子や会話、学校で行った課題への肯定的な評価など、多くのコメントが寄せられることで、本児の自己肯定感の高まりにもつながったと感じている。放課後に通っている学童保育での情報も教えていただいている。様々な行事等を楽しみ、友達とのトラブルも減って、笑顔が増えたようである。また、学校からも本児の学校での様子やできるようになったことを丁寧に伝えることで、子どもの成長を家庭と学校で共有し、お互いに安心感をもつことができた。

